

建設 ながの

(一社)長野市建設業協会
長野県建設業協会長野支部

広 報 誌

1

2026
(令和8年)
No. 236



美人林

長野県境からほど近い、新潟県十日町市にある「美人林」。冬になると一面が深い雪に覆われ、水墨画のような幻想的な世界へと姿を変えます。

雪原から一斉に立ち上がるブナの細身な幹は、雪の白さに際立ち、その凛とした美しさは格別です。周辺より気温が数度低く感じられるほど静謐な空気に包まれ、スノーシューで散策すれば、雪面に落ちる長い影やブナの枝に積もる雪など、冬にしか出会えない芸術的な景観を堪能できます。

(中島 麻希)

目 次

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 2. ■ 長野市長 年頭あいさつ | 7. ■ 長野市建設業協会会長 年頭あいさつ |
| 3. ■ 県長野建設事務所長 年頭あいさつ | ■ 長野市職員と建築懇談会 |
| 4. ■ 県現地機関と意見交換 | 8. ■ 「真田邸下張り文書の世界」 |
| ■ 長工高生「建設業の魅力学ぶ」 | 松代文化施設等管理事務所研究員 山中 さゆり |
| 5. ■ 「2026FIFAワールドカップ」 | 9. ■ 2団体合同賀詞交歓会 |
| (株)中村組専務 小山田 真也 | ■ 県土尻川砂防事務所職員と意見交換 |
| 6. ■ 県建設業協会長野支部長 年頭あいさつ | 10. ■ 年男年頭所感 |

新年のごあいさつ



長野市長
荻原 健司

明けましておめでとうございます。

長野県建設業協会長野支部、長野市建設業協会の皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃は都市基盤である社会資本等の整備をはじめ、災害時の緊急出動や冬季の除雪作業など、市民の安心・安全な暮らしの実現に御協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年は、長期化する物価高騰や全国各地でクマの出没が相次ぎ、被害が発生するなど、市民生活や経済活動が大きく影響を受けた1年でありました。

そのような中、本市では、令和元年東日本台風災害からの復旧・復興に取り組んでおりますが、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」の事業期間が、約4年延伸されると国から報告がありました。

本市としましては、プロジェクトに位置付けられている「塩崎遊水地の早期完成」も含め、引き続き国や県には一日も早い事業完了を粘り強く要望していくとともに、地域と国の調整役として積極的に協力してまいります。

本市の建設行政では、様々な効果が期待される（仮称）若穂スマートインターチェンジの整備を着実に進めるとともに、流域治水として市内複数箇所に整備中の雨水調整池についても、事業効果の早期発現を目指し、進めてまいります。

公共建築物につきましては、オリンピック施設など公共施設の長寿命化改修工事や、令和10年開催の国スポ・全障スポ大会に向けた施設整備を進めております。

建設業における働き方改革の観点から、週休2日工事の更なる推進や猛暑による作業不能日数を考慮した工期設定や熱中症対策など、労働環境に配慮した工事発注に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のお力添えを賜りますようお願い

いたします。

街路事業では、川中島幹線について、令和9年度末の開通を目指し、引き続き道路築造工事の進捗を図ってまいります。また、山王小柴見線は、老朽化した相生橋の架替え工事を令和9年度より本格的に着手するよう準備を進めております。さらに七瀬居町線は、早期工事着手を目指し用地取得を進めるとともに、北部幹線は、古里小学校前交差点から東へ信叟寺南側の現道まで延伸するため、本年度に事業認可を取得し、現在、詳細設計や用地買収に向けて土地の境界立会いを実施しています。

茶臼山動物園で整備中の「アムールトラの森」は、獣舎のほかに学習室や物販スペースを複合した施設を建築し、併せて、樹木や水による生息環境を再現した動物本来の行動を引き出す屋外展示施設を整備するもので、本年夏のオープンを目指しております。

中心市街地では、長野駅前で計画が進む市街地再開発事業の円滑な事業実施に向けて支援を行っていくほか、もんぜんぶら座敷地を含めた新田町交差点周辺のまちづくりについて、関係者等と連携して方針を定めてまいります。

上下水道事業では、能登半島地震や埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故を契機に、インフラの安全性や耐震化の重要性が改めて認識されました。本市では、犀川浄水場と夏目ヶ原浄水場を結ぶ送水管や東部浄化センターなどの急所施設、避難所などの重要施設に接続する管路の耐震化や老朽化対策を進めるとともに、持続可能な事業運営のため基盤強化に取り組んでおります。

水道事業では、本市を含め上田市、千曲市、坂城町及び長野県企業局との統合を目指し、「上田長野地域水道事業広域化協議会」において議論を重ねております。昨年11月には、更なる協議検討を進める上で指針となる基本計画に合意しました。今後、人口減少を見据えた施設整備計画や、業務の共同化による広域連携の効果を検討し、事業計画案の取りまとめを進めてまいります。人口減少や人材不足が進行する中、各水道事業者のノウハウや地域特性を生かし、力を合わせることで「新たな価値の創出」と「未来へのバージョンアップ」を目指し、協議会を構成する首長の皆様と共に取り組んでまいります。

結びに、今年一年の皆様の御多幸と御健康を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

人が集い活力あふれる「中核的都市圏・長野」



長野県長野建設事務所長
坂口 一俊

新年明けましておめでとうございます。

日頃は、当事務所の事業推進に多大なるご支援、ご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

長野地域は、政治・経済・文化・教育等の機能が集積し、県の中核的地域として発展する一方、千曲川の氾濫や山間部での土砂災害等を度々受けています。人口減少社会、気候変動による異常気象のなか、地域拠点のインフラ整備や公共サービスの維持、更なる発展を目指すコンパクト・プラス・ネットワークの構築、災害に強靱なまち・むらづくりを、同時にあわせもつ県土づくりが必要です。

道路ネットワーク強化では、長野市街地からの放射状線の整備に加え、周辺地域や拠点を結ぶ環状線の整備も進めるため、(一)三才大豆島中御所線の4車線化、若穂スマートインターチェンジによるアクセスの向上、落合橋架替や国道403号の狹隘箇所改善等の事業推進を図ります。昨年工事に着手した(一)三才大豆島中御所線の4車線化については、地域の皆様のご協力のもと引き続き工事を進めてまいります。また、落合橋架替については、現橋の下流約50mに新たに建設する橋梁の設計を進めるとともに、計画の定着を図ってまいります。

コンパクトなまちづくりでは、ネットワーク化がもたらす、人の交流、モノの移動の活性化や地域の活性化にあわせ、人をひきつける快適なまちづくりを展開すべく、地域拠点の川中島地区や篠ノ井地区での街路事業を進めます。川中島地区では、渋滞となっていた交差点において付加車線や歩道の整備を進め、部分的に供用開始することで整備効果が発現しています。

地域の安全・安心の要の整備も重要です。浅川第四排水機場整備、要配慮者利用施設を守る砂防施設整備や通学路等の交通安全対策推進事業等を進め、ソフト対策と連携し、地域の安全安心の確保に努めてまいります。

一方、インフラの老朽化対策が課題となる中、インフラメンテナンスを持続可能とするには、事後保全から予防保全への移行、修繕費の平準化が必要です。長寿命化計画による計画的修繕を実施し、橋梁は定期点検に基づく計画更新を行っているところです。また、建設後、45年経過した裾花ダムおよび55年経過した奥裾花ダムでは、堆砂進行が著しいことから、貯水機能の回復を目的として、堆積土除去を行いながら、抜本的対策を検討しています。

また、これらインフラ整備の担い手である地域建設業等における担い手の確保は大きな課題となっております。小中高大生の学ぶ場の拡充や、生産性向上と労働環境の改善を図る先進技術の活用、誰もが働きやすい環境改善等に、建設業界の皆様と力を合わせ取り組んでまいります。特に、次世代の担い手確保については重要な課題であると捉えており、協会等関係者の皆様のお力添えのもと、地元の高校生を対象とした「裾花川ウォーキングロードの整備」や「高校生と建設技術者との交流会」、中学生を対象とした「インターシップ」等に引き続き取り組んでいく必要があると考えています。

最後に、当事務所の取組の推進に、引き続き、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

地域を支える技術者集団

長野県土木施工管理技士会
長野支部

長野市岡田町124-1 長水建設会館内
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231

現場の課題を共有 県現地機関と意見交換



県建設業協会長野支部は11月26日、「県現地機関との意見交換会」を開催した＝写真。支部からは51人、県現地機関からは長野建設事務所、長野地域振興局、浅川改良事務所、裾花ダム管理事務所、千曲川流域下水道事務所、川中島水道管理事務所、北信会計センターの担当者25人が出席。各現場の課題について意見を交わした。

冒頭、飯島泰臣支部長は「我々は県民の安心安全・財産を守る責任がある。適正な施工と品質の確保、各現場の課題について認識を一致させ、明日からの仕事がスムーズに進められることを期待している」。長野建設事務所の坂口一俊所長は「現場の実情について共有を図り、改善事項は速やかに改善し、この場での解決が難しければ、しっかり上部に上げていく」とあいさつした。

意見交換会は、原山大輔土木委員長が座長となり、あらかじめ同支部がまとめた質問、要望事項に沿って行われた。支部側は、「工期が長い工事を担当すると実績件数が減ることになり、総合評価で不利になる」と指摘し、技術者が不利にならない特例措置等の考えがあるか質問。県側は「『長い』とする工期の考え方や、どのような救済措置が取れるか検討しているので、協会の声も聞かせてほしい」と答えた。

設計図書の不備があった場合、受注者の負担が大きい入札中止とせず、設計図書の見直しや入札延期などの対応を求めた支部側の要望に、県側は「適正な入札執行が困難な場合、中止の手続を取る必要がある」と理解を求めた。

設計に関し支部側は、契約後に測量設計等の不備が確認され、着手が大きく遅れるような設計の見直しが必要となった事例があったと指摘。県側は「納品時と工事の発注段階で図面と設計書等のチェックをより徹底する。発注前にも、再度現場状況を確認し、実態と設計積算内容が整合するよう、精度向上に努める」とした。熱中症予防対策の現場管理費補正について県側は、「真夏日の確認は、施工現場から最寄りの観測所のデータでの確認が基本なので、対象となりえる月の率は一律に算出できない」と回答した。

長工高生 建設業の魅力学ぶ

長野工業高校で11月18日、県建設業協会長野支部による建築と土木について学ぶ授業が開催された。建築学科2年生41人と土木工学科2年生39人が参加した。

建築については、同支部会員の野澤祥廣氏が講師となり、自身が前職で経験した海外建築物や、千広建設が施工し2025年10月にグッドデザイン賞を受章した東御市のアトリエ・ド・フロマージュ「森のチーズテラス」などを紹介。「工業高校の生徒は即戦力となる大切な存在。自分の得意分野や将来どんな形で建設業に関わりたいかを考えながら、国内外の建築物に触れる機会なども設け知識と経験を増やし、やりたいと思う進路を選



んでほしい」とアドバイスを送った＝写真左。

土木は、同支部の小山田雄治副支部長が講師を務め、技術者と技能者の違いや、仕事のやりがいなどについて講演。「建設業は人の命と財産を守り安心安全な暮らしを提供することが使命。建造物は半永久的に残り、自分がつくったと家族や友人に自慢ができる。女性も含め、建設業は働きやすい環境整備が進んでいるので、今日を機にこの業界についてより関心を深めてほしい」と積極的な入職を呼びかけた＝写真右。



2026FIFAワールドカップ

(株)中村組専務 小山田 真也

W杯イヤーです。4年に一度のサッカーの祭典、FIFAワールドカップが6月11日に開幕します。昨年11月の親善試合でブラジルを撃破し、歴代最強との呼び声も高い今の日本代表ですが、昨年12月に本大会の組み合わせが決まった直後の私の感想は、「キツイ組み合わせになったな～」って感じですかね。

W杯の本線予選は4チームの総当たりで、基本は上位2チームが勝ち上がりです。日本・オランダ・チュニジアの3チームともう1つは欧州プレーオフでこれから決まります。オランダは言わずもがな強いですし、チュニジアも現在のFIFAランキングは41位と日本より大分低いです(2025年12月で日本は18位 オランダ7位)、チュニジアはアフリカ予選を10試合で9勝1分と圧倒的な強さで突破しております。

日本が17位でチュニジアが40位なのだから余裕でしょって感じる方もいるかと思いますが、このFIFAランキングは少しからくりがありまして、そのチームの強さを示したもののなのですが、算出方法は過去の試合成績をポイント化して順位付けしたものです。

日本は前回のW杯でベスト16まで進出。今回のW杯予選でも勝ち続け、順当にポイントを加算したので、現在の順位(17位)となっております。

一方のチュニジアは、2010・2014のアフリカ予選で敗退、2018・2022はW杯に出場していますが、いずれも本大会で予選敗退です。今回のアフリカ予選を無敗で勝ち上がったのでポイント加算はされていますが、それ以前の成績がイマイチだとすぐにFIFAランキングは上がらないのです。

(工事成績の平均点と同じですね)

もう1つのチームは欧州プレーオフの結果次第ですが、おそらくウクライナ(28位)・ポーランド(31位)・スウェーデン(43位)のいずれかが勝ち上がると思いますが、3国とも強豪です。(たぶん死の組って言われるでしょう)

ただ今回から出場国が32から48に増えて、本線予選も3位でも通過の可能性があり、死の組になっても十分予選を突破する可能性があります。加えて、日本戦はどの試合も拮抗した熱戦となるので毎試合ハラハラドキドキできると思うので、今から楽しみでなりません。

最後に私の優勝予想と推しメンを紹介しておきます。

【準決勝】フランス対スペイン、イングランド対アルゼンチン

【決勝】スペイン対イングランド

【優勝】スペイン

ダークホースはノルウェーと日本

【日本推しメン】上田綺世・久保建英・三笥薫・鎌田大地・佐野海舟

【海外推しメン】ペドリ(スペイン)、ヤマル(スペイン)、フレンキーデヨング(オランダ)、ハーランド(ノルウェー)、ベリンガム(イングランド)、エムバペ(フランス)、ヴィルツ(ドイツ)

日本は過去最高成績がベスト16ですが、今回はそれを上回る成績を是非とも収めて貰いたいです。そしてこの記事を見た人は写メを撮って保存しておいて、W杯が始まる前に再度この記事を見て私の予想と照らし合わせながら観戦して下さい(笑)。



私の推しネコ

そして、街はメディアになる。

 **矢木コーポレーション 葵社**

長野市真島町川合2036番地 Tel:026-283-7000
Mail:yg@yagicompany.jp

年頭のご挨拶 **～命を守る～**



長野県建設業協会長野支部
支部長 **飯島 泰臣**

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、長野支部の諸活動について、会員の皆さまをはじめ関係各位から多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、2025年を振り返りますと、国内外とも正に激動の一年であったと感じます。新年早々、アメリカでは「自国ファースト」を掲げるトランプ政権が発足し、関税政策を巡って世界経済は大きく揺れ動きました。また、終息の兆しが見えないロシア・ウクライナ戦争をはじめ、世界各地で紛争が相次ぎ、資源やエネルギーを海外に依存する日本経済にも大きな影響を及ぼしました。

一方で、国内に目を向けると、当初は開催を危ぶむ声すらあった大阪・関西万博が予想を上回る盛況となったことや、初の女性総理誕生への期待感もあり政権支持率が大きく上昇するなど、未来に明るさを感じさせる出来事もありました。混沌の中にも、確かな希望の芽が見えた一年であったと言えるのではないのでしょうか。

そうした中、建設業界にとって特筆すべき出来事は、昨夏の「記録的猛暑」であります。連日35度を超える危険な暑さが続き、現場では命の危険すら感じる状況が日常となりました。これを受け、6月からは労働安全衛生規則が改正され、企業に対する熱中症対策が義務化されました。炎天下での屋外作業が避けられない建設業において、これは単なる法令対応にとどまらず、現場で働く人の命を守るための取り組みを、企業自らが主体的に考え、実行していくことを求められるようになったことを意味しています。会員の皆さまも、酷暑の現場対応に頭を悩ませたことと拝察いたします。

また、労働環境を脅かす新たな課題として深刻化しているのが、全国各地で相次ぐクマの出没による人的被害です。もはや山間部だけの問題では

なく、市街地や生活圏にまで被害が広がる中、特に山間での作業が少なくない当支部管内においては、その危険性も高まっています。今は会員各社において自己防衛措置を講じている状況ですが、今後は地域や行政と連携し、現場の安全を確保するための実効性ある対策が、より一層求められるものと考えます。

そして、建設業界における「人手不足」「担い手確保」の問題です。この課題は、もはや一時的なものではなくわが業界の構造的な課題となっています。給与や休日といった処遇面の改善はもちろんのこと、「高所作業」「重労働」「危険な仕事」といった根強いイメージが、いまだ十分に払拭されているとは言えません。そうした中であっても、会員各社が創意工夫と努力を重ね、働きやすい職場づくりや安全性向上に取り組まれていることに、改めて敬意を表します。

ここ数年は、従来の労働災害の概念では捉えきれない新たなリスクも顕在化しています。熱中症や野生動物への対応に加え、精神的な負担を生むハラスメントへの対策など、身体面・精神面の両面から労働環境を整えていくことが、これまで以上に重要になっています。私自身、一経営者として、大切な社員一人ひとりが安心して働き続けられる環境をどう築いていくべきか、日々自問自答を重ねております。一方で、こうした諸対策に伴う現場経費の増加が、企業経営を圧迫していることも紛れもない事実です。現場の実情や会員企業の切実な声を国や県にしっかりと届け、制度や支援の充実につなげていくことは、建設業協会に課せられた重要な役割であると考えておりますので、しっかり対応していく所存です。

結びになりますが、本年の干支「丙午」について触れさせていただきます。「午(馬)」は、後ろを振り返らず前へ進む姿から、前向きなエネルギー、挑戦、飛躍の象徴とされてきました。現場の安全を守り、命を守るための取り組みを着実に積み重ねながら、私たち建設業が持つ底力と誇りを胸に、次の時代へ向かって一歩ずつ歩みを進めていきたいものです。

2026年が、会員の皆さま、そして建設業界全体にとって、馬の如く大きく飛躍する一年となることを心より祈念申し上げます。本年も引き続き、当支部の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

未来を描ける産業に



一般社団法人長野市建設業協会
会長 川浦 俊樹

2026年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

会員の皆様には平素より、当協会の運営に格別のご理解とご協力をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、九州南部や石川県などの北陸地方での豪雨災害など、全国各地で大規模な災害が発生し、土砂崩れや河川の氾濫等により、多くの国民の生命・財産に甚大な被害をもたらしました。地域の安全と生活を守るため建設業は「地域の守り手」として社会に不可欠な存在であることを改めて認識した一年でありました。一方で、資材価格の高騰や人材不足といった構造的課題も顕在化しました。働き方改革関連法の完全施行に伴い、時間外労働の上限規制が本格化し、現場の効率化と生産性向上が急務となりました。

建設業界は「新4K（給与・休暇・希望・格好いい）」の実現を目指し、若い世代にとって魅力ある産業となるように努力を続けております。週休二日制の定着やICT・DXの活用は、その第一歩であります。また、災害復旧やインフラの維持更新、地域の安全・安心を支える公共工事の重要性はますます高まっております。

建設業の持続可能な経営のためには、公共工事の安定的な事業量の確保が不可欠です。当協会としましても長野市との連携を一層強化し、地域建設業が安心して未来を描ける環境づくりに努めてまいります。

ここ数年は小学校長寿命化改修工事で児童を対象とした工事現場見学会を開催。また、「ながの地域まるごとキャンパス」の活動プログラムにも参加し、一人でも多くの子供・学生が建設業に興味や関心を持ってもらうよう、積極的に働きかけています。

本年も長野市行政との懇談会等を通じ、現場の実情を踏まえた意見交換を積極的に行い会員企業の声が届けることで、より実効性のある仕組みづくりに寄与していきたいと思っております。

結びに、会員の皆様のご健勝とご繁栄を祈念しつつ、引き続き当協会の活動にご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

市職員と建築懇談会



長野市建設業協会は11月12日、市の建築担当者らと建築行政懇談会を開いた＝写真。市から武井晋市技幹兼課長ら13人、協会からは女性部会も含む建築技術者ら約30人が出席。担い手不足解消、女性活躍のための環境整備などについて意見交換した。徳武信行副会長は「行政と業界が協力し、難しい課題の解消につなげたい」とあいさつ。武井技幹兼課長は「地元建設業は地域を支える大切

な存在。DX推進や女性活躍などに市も取り組む」と述べた。

「猛暑で事前に見込んでいた作業不能日の日数を超えた際の工期延長は可能か」との質問に、市側は「協議で対応する」と回答した。設計図書に示された施工条件が実際と一致しない場合は、「発注者が該当する内容を確認し、必要に応じて設計図書の訂正や変更を行っていく」とした。

担い手確保に向けては、市教育委員会と連携したキャリア教育や職場体験など「長野市モデル」の推進を協議。協会が作成中の協力企業名簿を教育委員会に提供し、学校現場での体験機会を広げる方針が示された。児童を対象とした現場見学会、市民参加型イベントの共催なども提案され、市側は「安全確保などを前提に前向きに検討したい」と応じた。

真田邸下張り文書の世界

松代文化施設等管理事務所
研究員 山中 さゆり

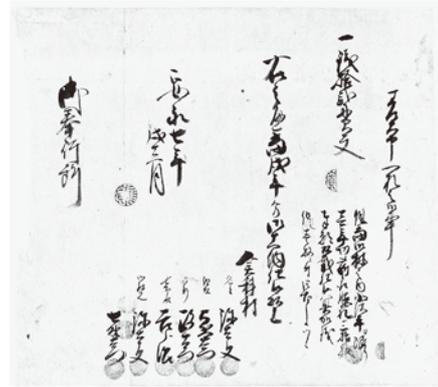
新年あけましておめでとうございます。本年も
よろしくお願い申し上げます。

さて、真田宝物館では、昨年末から4月13日
まで「真田邸下張り文書の世界」という特別展を
開催しています。今回はこの展示についてご紹介
します。

真田邸の下張り文書については、以前もご紹介
したことがありますが、少しおさらいをしてみ
ましょう。真田邸は、江戸時代の末期、9代藩
主・真田幸教が、義母である貞松院の住居として
建てたもので、はじめは新御殿といました。後
に、幸教の隠居所となり、明治時代以降は真田家
の私邸として使われました。

平成16年(2004)から8年間にわたり、初め
て全面改修工事が行われ、その際に取り外された
100枚を超える襖や壁紙に、大量の下張り文書が
あることがわかりました。真田宝物館では、この
下張り文書を、松代文化財ボランティアの会会員
のうち、やってみたく希望された方々とともに
整理作業を進め、14年が経過した今年度、作業
が終了する見通しとなったことから、これまでの
活動の集大成として成果を発表するため、特別展
を開催する運びとなりました。

「下張り」というのは、文字通り、襖や壁紙、
天井紙の下つまり内側に貼られた紙のことです。
内側に貼るので、使用済みの反故紙(ほごし)が
使われ、文字が書かれたものもあり、これらを
「下張り文書」と呼びます。一般的に、下張りに
使用される反故紙は、その襖などを発注した施主
側が準備して、実際に作業する職人に提供し、再
利用されるといいます。すなわち、真田邸の下張
りに使われる反故紙は、真田家および松代藩側が
準備するものということになります。しかし、真
田邸の下張りから取り出された文書の7~8割ほ
どは、真田家とは関係のない、商家で作成され
た帳簿類をほどこいたものでした。真田邸建築の
際に必要な物品などを書き記した資料には、襖の



下張り文書

りに使う反故紙が足りず、困っていたところ、稲
荷山(現:千曲市)から買い上げることができ
たと書かれています。おそらく、稲荷山の古紙業者
などが町や村から集めたものを買ったと考えられ
、商家の帳簿類が数多く下張りに使われていること
とつながります。

また、藩のお金を取り仕切る「御金方」からも
反故紙を集めたとあります。確かに、下張り文書
からは、御金方が関わり支払ったと思われるお金
の受取証文や、年貢米の換金について書かれた帳
面などが見つかっています。今後は、さらに個々
の下張り文書の内容を分析していくことで、どの
ような文書が作成され、どのようなシステムで稟
議にかけられて保存され、最後には廃棄文書とな
って下張りに使用されたのかという、文書のライ
フサイクルともいえるべき事がわかってくるもの
と考えています。

下張り文書の整理には大変な時間と人手がかか
ります。この活動を担ってくださったボランティア
の皆さんの存在がなければ、やり遂げることは
できませんでした。試行錯誤を重ね、方法を学び
、継続してきたこの活動は、主体的に学び、実現
していくという博物館ボランティアの理想的な活動
ともいえ、今後も大切にしていきたいところです。

皆さんが楽しんで活動して下さっていたとはい
え、長く継続してこられたのは、参加してくだ
さった方々が真摯に資料に向き合い、歴史を大切
にしたいという気持ちがあったからだと思います。
心から敬意を表し、御礼申し上げますとともに、
下張り文書を使ってさらに研究を深めていかな
ければならないと、気持ちも新たにしているところ
です。ぜひ、そんな活動の成果を、特別展でご覧
いただければと思います。

「諦めず課題解決に努力」

長野支部・長野市建協 合同新年会

県建設業協会長野支部と長野市建設業協会の「新年合同賀詞交歓会」が15日、長野市県町のホテル国際21で開かれた。多くの会員と来賓が出席し、市民生活やまちづくりへの貢献を誓い、両団体のさらなる発展を祈念して新年の門出を祝った。

あいさつに立った飯島泰臣支部長は「物価上昇や人手不足など課題は山積している。具体的な解決策を示すことは難しいが、諦めることなく行政や学校と連携し、若手入職者の確保など努力していく。今年も労働災害防止を第一に、市建設業協会と共に地域の守り手としての責務を全うしたい」。川浦俊樹会長は「『安全最優先』『地域経済への貢献』『働きやすい環境整備』を柱に両団体で協力し、知恵を出し合いながら地域のために活動していく」と新年の抱負を述べた。

長野市の荻原健司市長は「週休二日制や酷暑対策などで必要な費用も増すと思うが、現場で働く方々の命を守るため、市もしっかり予算を確保していく」。自民党県第一選挙区支部長の若林健太氏は「地域の課題を国に伝える橋渡し役としての責務を果たせるよう取り組む」。県議会入札制度研究会長の服部宏昭県議は「働き方改革や休日の確保に対応し、より良い仕事ができるよう必要な予算を確保する」とそれぞれ祝辞を述べ、長野市議会の若林祥議長が乾杯の音頭を取り、会場は和やかな歓談に包まれた。

県建設業協会長野支部は賀詞交歓会に先立ち、善光寺大勧進で安全祈願を実施し、同ホテルで支部長表彰式も開いた。受賞者代表で山倉建設の和田明人社長は「活気ある協会のため、今後も協力していく」と謝辞を述べた。代表によるダルマの目入れの後、県長野建設事務所の坂口一俊所長が祝辞を述べ、岡澤元夫支部相談役の音頭で手締めを行い、さらなる発展を祈念した。

令和7年度支部長表彰の受賞者は次の各氏。

【3条関係 企業役員】

△和田明人（山倉建設代表取締役）

【5条関係 企業従業員】

△大久保正幸（飯島建設住宅事業本部営業部リ

あいさつする
飯島支部長(左)
右は川浦会長



フォーム課課長代理) △佐藤寛子（同管理本部経理課）△小笠原亨（小山田組取締役）△上條聡（同同）△松本優一（鹿熊組土木工事部次長）△松本ゆり（同土木工事部支援課課長）△中村直久（喜久屋商会取締役工事部長）△岩波智成（北野建設本社建築事業本部松本支店諏訪営業所所長）△勝見淳一（同技術本部設計部部長）△北村昌和（同建築事業本部積算部次長）△清水正剛（同執行役員建築事業本部建築部長）△想田尚孝（同安全管理室本部安全管理室室長）△丸山讓（同執行役員土木事業本部長安全管理本部副本部長技術本部担当）△山口淳（同本社建築事業本部建築部工事現場工事長）△久保田和司（高木建設高府営業所機工科科長）△峯村はつえ（同土木部主任）△神田智二（長野機材課長）△松田金吾（服田建設大工棟梁）△井原雅之（北信土建建築事業部課長）△加藤智康（村松建設主任）△長崎将康（同同）△丸山健吾（守谷商会長野建築本店工事部部長）

県土尻川職員と技術懇談会 犀協会 砂防安全パトロールも

犀協会は12月18日、砂防安全パトロールと技術懇談会を行った。午前中は県土尻川砂防事務所発注現場を2班に分かれて回り、作業状況や安全対策などを確認しながらパトロールを行い、結果報告会では、良好な点と指摘した箇所を共有した。

技術懇談会で小池毅夫副会長は「年末年始は事故のリスクが高まり、ヒューマンエラーも発生しやすい」と注意を呼びかけ、県土尻川砂防事務所の玉川博之所長は「現場の安全管理の徹底と体調管理に努め、作業を進めてほしい」と述べた。

懇談会は犀協会の北澤宏充砂防委員長が進行役を務め、県土尻川砂防事務所職員と活発な意見を交わした。

午年男年頭所感



年男として…

松代建設工業(株)
社長 湯本 宜成

丙午・五黄の寅って良く聞きますよね？これって十二支と十干の組合せで60通りになり必ず60年に1度回ってくるのですが、この2つの組合せはなぜか良く言われてない気が…そう！自分「丙午」生まれの還暦になるんですよ～今年(汗)。

「丙」は炎のように燃え広がる火を「午」は真夏の火を意味するようで火の力が重なる干支、勢いの強さや激しさ・情熱を象徴すると言われるようです。先代の祖父から会社を引き継ぎ27年が過ぎ、親と同じかそれ以上の大先輩に仕込んでいただいたお陰で今日があるのだと感謝しております。特に市協会長を仰せつかった4年間は会員の皆様に大変にご協力いただき本当にありがとうございました。

これからも情熱を持って業界活動に会社経営に臨みたいと思いますので引き続き宜しくお願いいたします。



年男として一言

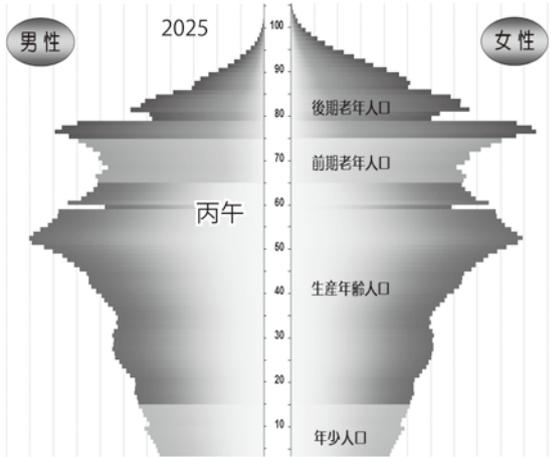
(株)鹿熊組
社長 鹿熊 聡

私が最初に所属した会社は60歳定年で、退職を迎える先輩方は引退にふさわしい人が多いように見えました。自分がそんな年を迎える実感は全くないので、今年の干支にまつわる馬鹿馬鹿しい迷信を書きたいと思います。

「ひのえうま 江戸から令和の迷信と日本社会」(光文社新書)によると、丙午生まれの八百屋お七という娘が思い人に会いたい一心で放火事件を起こしてしまいます。井原西鶴が「好色五人

女」でたいへんな美女として取り上げて有名になり、坂本冬美の「夜桜お七」も同じ娘だそうです。この気性の荒い女性が有名になった為に、丙午生まれの女性は気が強く、不幸になるという迷信が生まれ、出生率が極端に低くなってしまったとの事です。

ぜひこのような迷信を信じることなく、子どもがじゃんじゃん生まれる1年になるようお願いしております。



「日本の将来推計人口(平成29年推計)」
(国立社会保障・人口問題研究所)から抜粋、加工



恵まれた人生

久米路建設(株)
社長 小山田 武久

昭和17年1月の戦中生まれ、早7回目の年男であります。21才から家業の土木に従事。薬不要の今日(こんにち)。特段の体調不良もなく、煙草とビールを楽しみつつ頑丈な体で働けることにつき、只々亡き両親に感謝です。平成10年、工事保証に伴い、久米路建設を小山田組の傘下とし、現在も責務上、代表職を務めております。

こうした中、家族と取り巻く人達に恵まれ良い人生を送ることができました。また、最近では昭和の常識を意識するようになりました。(「小言」「嫌味」「憎まれ口」を世の為、人の為と多少は言わせてもらっております。)

平成・令和生まれの人とも交流する中、少しは自分を甘やかしつつ、頑丈な体を大切に頑張っていく所存です。



残された年に 思いを巡らす

(株)石坂産業
会長 石坂 勝美

年男も6回目(0歳を除いて)ともなると過ぎた歳の方が多く、残された年のことに思いを巡らすようになりました。

諸事物言いを少なくして、若い人たちの決断と成長を応援したいと思うようになりました。

ガラパゴス化しつつあった日本の30年も、世界中の変化の中でどう変わるのか。大変だったコロナの少し前から始まった経済のインフレ、円安、物価高税金増、可処分所得の減少、賃金の上昇のままならぬこと。更に、世界秩序の乱れ、各国で起こる紛争。

変化する諸々に立ち向かう後輩たちの後押しができればと願うところです。



何事もウマくいく！

(株)岡村吉建設
社長 岡村 吉人

新年明けましておめでとうございます。今年で6回目の年男になります。小さな頃は時間の経過をととても長く感じていたものですが、還暦を過ぎてからは本当にあっという間に時間が過ぎてしまいました。

若い時は休みも少なく、働け働けの時代でした。そのような状況の中で沢山の人と出会いました。色々な事を教えて頂き、「良い事も悪い事」も含め現在の自分があるのだと思っています。

二十数年前に妻に先立たれ、その後両親を看取りました。今は4人いる子供の内3人と共に仕事をしております。また、4人の孫にも恵まれました。その成長に喜びを感じると同時に、亡き妻に自分だけこんなに幸せで良いのか自問する日々です。

午年にあたり、「前進」「飛躍」の年ということで、より一層の幸運が駆け込んでくる一年にしたいです。「何事もウマくいく！」



建設業の “縁の下の力持ち”

(株)井上産業
社長 塩入 厚

年男の節目を迎え、これまで携わってきた仕事を改めて振り返っております。私たちが担うのは、解体や土木といった建設業の“縁の下の力持ち”としての役割です。地盤を整え、次の構造物が安心して建てられる環境をつくることは、決して派手ではありませんが、地域の発展を根底から支える大切な仕事だと感じています。

また弊社では、碎石などの資材運搬や重機輸送に加え、資材のリサイクル事業にも取り組み、廃棄物の削減や環境負荷の低減を図りながら、地球環境に配慮した循環型の事業を展開しています。

午年の年男として、安全を最優先に、馬のように力強く一步一步着実に前進してまいります。



未来への挑戦を加速

(有)川久保建材
社長 川久保 守

私は年男として新たな節目を迎えました。

これまで多くの先輩方に支えられ、建設業に携わる者としての姿勢や責任を学んでまいりました。あらためてそのご指導に深く感謝するとともに、地域の発展を担う建設業の一員として、気持ち新たに歩みを進める決意です。

少子高齢化や人口減少など、私たちを取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、社会基盤を支える使命は揺らぐことなく、むしろ重要性を増しています。安全・安心な施工はもちろん、若手の育成や新たな技術の導入にも積極的に取り組み、持続可能な業界の実現に貢献していきたいと考えております。

年男として迎えた本年を、未来への挑戦を加速させる一年とできるよう、誠心誠意努めてまいりますので、皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 長野県建設業協会長野支部

- 11月 10日 △理事・監事・顧問・相談役会議
- 11月 11日 △長野工業高校授業支援 (建築科)
- 11月 18日 △長野工業高校授業支援 (土木科・建築科)
- 11月 19日 △長野建設事務所除雪連絡会議
- 11月 26日 △現地機関との意見交換会
- 12月 3日 △表彰特別委員会
- 12月 8日 △長野地区木造家屋等建築工事安全対策委員会安全パトロール
- 12月 15日 △理事・監事・顧問・相談役会
△二団体合同役員会
- 12月 16日 △技術専門研修 (No.2、No.3) (技士会共催)
- 12月 17日 △監理技術者講習会
- 12月 18日 △長野工業高校建築科生徒と若手社員との座談会
- 12月 23日 △正副支部長・委員長・部会長会議
- 12月 25日 △第42回献血ボランティア「建設で献血だ！」(市協会合同)
- 1月 7日 △長野市新年賀詞交歓会
- 1月 13日 △正副支部長会議
△長野建築センター新春名刺交歓会
- 1月 15日 △安全祈願
△支部長表彰式・ダルマ開眼式
△賀詞交歓会 (市協会合同)

● 長野市建設業協会

- 11月 12日 △建築行政懇談会
- 11月 27日 △広報委員会
- 12月 7日 △「ながの地域まるごとキャンパス」報告会参加
- 12月 9日 △長野経済新聞社・建設タイムズ新春合併号座談会
- 12月 15日 △理事会
△入会審査委員会
△二団体合同役員会
- 12月 25日 △第42回献血ボランティア「建設で献血だ！」(支部合同)
- 1月 7日 △長野市新年賀詞交歓会
- 1月 13日 △長野建築センター新春名刺交歓会
- 1月 15日 △賀詞交歓会 (支部合同)

● 関連団体

- 11月 7日 技士会：△準備講習講師反省会
- 11月18～19日 建災防：△建築物等の鉄骨組立等作業主任者技能講習会
- 11月 25日 建災防：△安全指導者会
会館：△取締役会
- 11月 27日 建災防：△建災防県支部安全大会
- 12月 5日 犀協会：△砂防正副委員長会議
- 12月8～9日 建災防：△建築物石綿含有建材調査者講習会
- 12月 11日 建災防：△安全パトロール
△冬季労働災害防止集団指導
- 12月 16日 技士会：△技術専門研修 (No.2、No.3) (長野支部共催)

- 12月 18日 犀協会：△砂防安全パトロール
△パトロール報告会
△砂防技術懇談会
△土尻川砂防事務所との意見交換会
- 12月 23日 建災防：△足場の組立て等の業務に係る特別教育
- 1月 8日 犀協会：△正副会長会議
- 1月 13日 建災防：△建災防県支部事務局会議

会員動静

- 入会 (支部正会員、12月1日付)
総合地質コンサルタント(株)、(株)原建
- 入会 (市協会正会員、12月15日付)
(株)原建、(株)マルオン商会
- 代表者変更 (支部2号会員)
北栄工業(株) 嗣 北澤翔太 嗣 北澤幸雄

編集後記

今年の冬は、例年の「らしさ」がどこか影を潜め、暖かさと急な冷え込みが交互に訪れる落ち着かない日々が続いています。現場では天候の読みづらさが作業計画にも影響し、改めて自然と向き合う仕事の難しさや奥深さを感じさせられました。一方で、職人の皆さんがその都度判断を重ね、柔軟に対応していく姿には、変わらぬ頼もしさがあります。気候が変われば、建設の在り方もまた変わっていくのでしょうか。そんな移ろいの季節に振り回されつつも、なんとか日々を積み上げていくのが私たちの仕事です。

寒暖差に振り回される季節ですが、どうぞ皆さま無理のないペースで。あたたかくしてお過ごしください。
(和田浩行)

発行所 一般社団法人長野市建設業協会

<https://sikenkyo.sakura.ne.jp/>
長野市岡田町124-1 長水建設会館内
TEL026-224-3660 Fax026-228-6231
長野県建設業協会長野支部
<http://w2.avis.ne.jp/~nkn/>
長野市岡田町124-1 長水建設会館内
TEL026-227-6226 Fax026-228-6231

発行責任者 飯島 泰臣 川浦 俊樹

編集責任者 柳沢 昌宏

編集製作 長野経済新聞社

建設ながのNo.236 令和8年1月発行